

愛知県 精神医療センター ニュース

vol. 11

2021.10
愛知県精神医療
センター広報誌

特集 精神保健福祉士

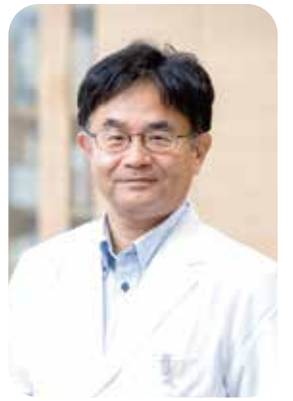
新院長挨拶

[INFORMATION]

2021年 愛知精神医療センター公開講座のお知らせ



新院長挨拶



愛知県精神医療センター
院長 高木 宏

この度、令和3年4月1日より愛知精神医療センター院長を拝命しました。

当院は昭和6年、全国で7番目の都道府県立精神科病院として設立されて以降、精神科医療の在り方はずいぶん変化しましたが、当院は一貫して愛知県の精神科医療の中核として、その時代に要請された医療を行ってきました。現在では愛知県内の精神科病院で最も平均在院日数の短い病院となっています。病院施設も50年以上使用し続けていた建物もありましたが、平成30年には全面リニューアルオープンし、病院の名称も愛知県立城山病院から愛知県立精神医療センターと変更しました。城山病院時代は入院中心の医療を象徴するように、周囲を高い垣根で囲い、中の様子がうかがえないよ

うな状態でしたが、新しい病院ではフェンスも低くし病院の建物がみられるようになっただけでなく、芝生広場や散策路なども設けて地域に開かれた雰囲気となり、ちよつとした都市公園的な雰囲気となりました。このように前粉川院長の元、病院施設としてのハードは整いました。今後はそのハードを利用してよりよい医療、患者さんや地域に求められる医療を行っていきたいと思っています。

医療内容としては、今まで同様精神科救急を中心として、治療抵抗性精神障害の治療、児童思春期、成人発達障害などに加えて、今後は依存症治療にも取り組んでいきたいと考えています。また今後精神科医療は、治療などに関して患者さんと治療者の共同意思決定(Shared Decision Making・SDM)に基づいて行われていくようになっていくと考えていますが、それが成り立つためには、病院自体が風通しの良い、患者さんもスタッフ間も意見や思いを自由に言える雰囲気が必要です。そんな患者さんにとっても、スタッフにとっても居心地のいい自由な雰囲気の病院にしていきたいと考えています。皆さん、よろしく願っています。

Information

2021年度 愛知県精神医療センター 公開講座のお知らせ

今年度はYouTubeによるオンデマンド方式で講座を配信いたします。ご案内期間中であれば、いつでもご視聴いただけます。配信期間に、愛知県精神医療センターホームページで、ご視聴のためのアドレスをご案内します。

第1回

[テーマ] 「コロナ禍におけるケア」

講師：平澤 克己 医師

配信期間：令和3年11月12日～11月26日

第2回

[テーマ] 精神科看護師の考える「コミュニケーションとメンタルヘルスパ1」
アイメッセージで自分の気持ちを知ろう

講師：坂田 正治 精神科認定看護師
新美 浩二郎 精神科認定看護師

配信期間：令和4年1月14日～1月28日

第3回

[テーマ] 精神科看護師の考える「コミュニケーションとメンタルヘルスパ2」
自分だけで抱え込まない

講師：坂田 正治 精神科認定看護師
新美 浩二郎 精神科認定看護師

配信期間：令和4年2月18日～3月4日

問い合わせ先 事務部総務グループ TEL 052-763-1511 内線：609



愛知県精神医療センター
Aichi Psychiatric Medical Center

〒464-0031 名古屋市千種区徳川山町 4-1-7
TEL 052-763-1511
<https://www.pref.aichi.jp/seishiniryō-center/>



A group of approximately 15 students, mostly wearing white lab coats, are posing in a courtyard. They are arranged in a circle around a central area filled with dark rocks. Some students are standing with their arms raised, while others are sitting or kneeling on the ground. The courtyard is paved with red and grey bricks. In the background, there are modern buildings with large windows and some green trees.

Dr. Yoko Kato

「地域包括ケアシステム」という言葉をお聞きになったことはありますか？

日本の精神医療は、長く入院治療が主流の時代が続きました。平成16年、国は「入院医療中心から地域生活中心へ」と

いう基本指針を示しました。加えて「地域を拠点とする共生社会の実現」にむけた取り組みを旨し、平成29年には、精神障害者が地域の一員として安心して自分らしい暮らしができるよう「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」の構築を目指すことを打ち出しました。

当院においても、この流れをうけて、入院されている方々の退院支援を進めています。その取り組みとして、入院中の方々に対して、行政と協力をし、社会資源見学ツアー”を企画し、地域のグループホーム等に見学する取り組みをしております。また、ピアサポーター（当事者）や地域の事業所の方を当院にお招きし、退院後の生活についてお話頂くこともあります。ここ最近では、当院スタッフが地域に出向き、疾患や社会資源等についてお話をし、意見交換をさせてもらう機会が増えました。

現在、様々な事情で長期入院をせざるを得なかった方々が退院をし、地域の見守りや、デイケア、

訪問看護、ホームヘルパーなどを利用して、自分らしい生活を送っておられます。当院の平均在院日数をみても、平成16年は227日、平成26年には125日、令和2年には75日と年々減少しており、今後も精神科病院に入院されている方々の地域移行・地域定着は進んでいくと思われます。

近年、精神疾患を有する患者さんの数は増加傾向にあります。平成17年の303万人に対し、平成29年には約419万人、生涯を通じて5人に1人がこころの病

気にかかるともいわれています。精神疾患を有する方々が安心して地域生活を送るためには、安心して受診や相談ができる医療機関の存在が大切です。今後も、地域の方に必要とされる病院を目指し、また、地域包括ケアシステムの構築のために、医療、福祉等が包括的に確保されるよう、病院と地域が連携していくことができればと思います。

当院に、地域とのつなぎ役である精神保健福祉士がいることを知っていただき、地域医療連携室をご活用いただけるとう幸いです。

ますか？

日本の精神医療は、長く入院

当院においても、この流れをうけて、入院されている方々の退院支援を進めています。その取り組みとして、入院中の方々に対して、行政と協力をし、社

会資源見学ツアー”を企画し、地域のグループホーム等に見学する取り組みをしております。また、ピアサポーター（当事者）や地域の事業所の方を当院にお招きし、退院後の生活についてお話頂くこともあります。ここ最近では、当院スタッフが地域に出向き、疾患や社会資源等についてお話をし、意見交換をさせてもらう機会が増えました。

近年、精神疾患を有する患者さ

んの数は増加傾向にあります。平成17年の303万人に対し、平成29年には約419万人、生涯を通じて5人に1人がこころの病

くことができればと思います。

当院に、地域とのつなぎ役である精神保健福祉士がいることを知っていただき、地域医療連携室をご活用いただけると幸いです。

他の医療機関
との連携調整を
しています。

患者さんの笑顔が中心です

チームによる
アプローチを
大切にしています。

誰もが地域の中で安心して暮らせることを
目指して患者さんと取り巻く環境の
“つなぎ役”を担っています。

訪問による支援を通して
その人らしい生活をお手
伝いしています。

あらゆるご相談に
誠意をもって
対応しています。

地域医療連携室について



副院長・総合医療部長
羽湊 知可子

医療のことや受診のこと、ご家族の悩み、お金の問題、(面倒な)各種手続きのことなど、「どこで解決したらいいんだろう?」って悩むことはありませんか?

そういうとき、「地域医療連携室」があります。専門の精神保健福祉士・看護師が、みなさまの立場にたって、と一緒に解決を考えていきます。きっとお役に立てると思います。「地域医療連携室」は、病院と地域をつなぐ窓口です。これからも安心してみなさまに医療を提供できるようつとめてまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。

